

末期がんの活動レベルの推移に応じた医療介入

各時期の説明

①地域包括支援センターのケアマネジャーに介入してもらい支援の度合いとケアプランの作成をします

②退院時など、ケアマネジャーを中心に病院主治医や病院看護師、病院の地域医療室とともに、訪問診療や訪問看護のスタッフが申し送りをうけます。

③訪問診療や訪問看護が週1回程度の訪問で状態の観察に伺います。
(この期間がない方もいます。)

④週4回の医師又は看護師による訪問診療や訪問看護が行われます。
このころになると、自力で色々なことが出来ない状態になっています。体力が落ちてしまい一つのこと集中できなくなりいつも横になってしまいがちです。ヘルパーさんや、リハビリテーションの先生も介入して体力を維持していきます。
終末期のよりよい状態を維持するため、病院で行っている治療に近づける目的で自宅でも同様に継続していきます。

⑤週4回以上の医師又は看護師による訪問診療や訪問看護が行われます。
このころになると、寝たきりとなり、ほぼ毎日何かしらのサポートが入るようになります。
食事が出来ない場合は鼻から胃にチューブまたは心臓に近い位置に点滴を入れ点滴から栄養を投与することがあります。

⑥ご臨終に際しては通院できる状態の時に事前にACP（お看取りの方法）についてお聞きしています。

